

基礎調査結果概要

1. 市民アンケート結果概要

(1)ごみに関する市民の関心と行動

5Rの取り組みのうち、リフューズやリペアについては言葉の認知度が相対的に低い状況(問2(1))ですが、リフューズを実践している方は多く(問2(2))、「言葉は知らないがライフスタイルに根付いている」状況が窺えます。リユースについては言葉の認知度は高い(問2(1))ものの、具体的な取り組みとして「フリーマーケットやリサイクルショップの利用」に関心があるかというと、こちらについてはあまり関心が高くありませんでした(問1(1))。リユースの実践度も相対的に低い(問2(2))ため、リユースについて言葉を知っているものの、どう実践すればよいかわからない方が一定数いる状況といえます。

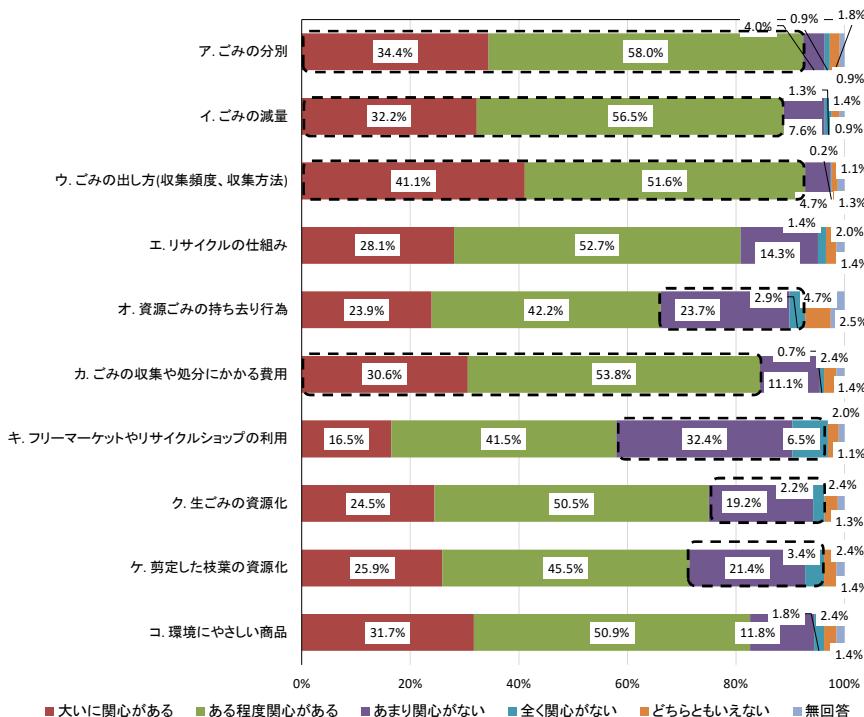
また剪定枝や生ごみ等の資源化についても相対的に関心が低い状況です(問1(1))。

市では5Rに関する啓発、「リユース市」などのリユースの取り組み、家庭での生ごみ処理器「キエ一口」の普及等、5R型ライフスタイルの浸透を目指した施策を進めていますが、さらに啓発を強め、施策の認知度をあげることで5R型ライフスタイルを実践する市民を増やしていくことが求められます。

【関連するアンケート結果】

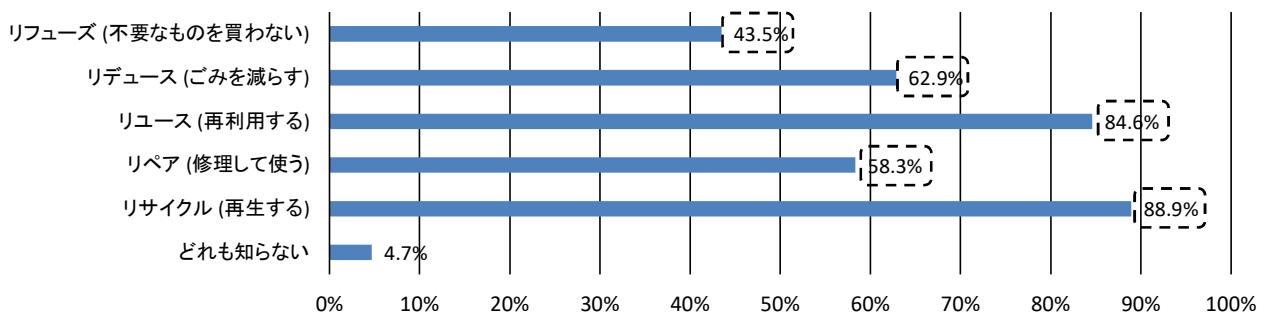
問1 (1) ごみに関することについてお聞きします。関心がある取り組みについて教えてください。
(単一回答、n=552)

関心がある取り組み(大いに関心がある、ある程度関心がある、の計)について、「ウ.ごみの出し方」が92.7%と最も多く、次に「ア.ごみの分別」が92.4%、「イ.ごみの減量」が88.7%、「カ.ごみの収集や処分にかかる費用」が84.4%であった。関心がない取り組み(あまり関心がない、全く関心がない、の計)について、「キ.フリーマーケットなどの利用」が38.9%と最も多く、次に「オ.資源ごみの持ち去り行為」が26.6%、「ケ.剪定した枝葉の資源化」が24.8%、「ク.生ごみの資源化」が21.4%であった。

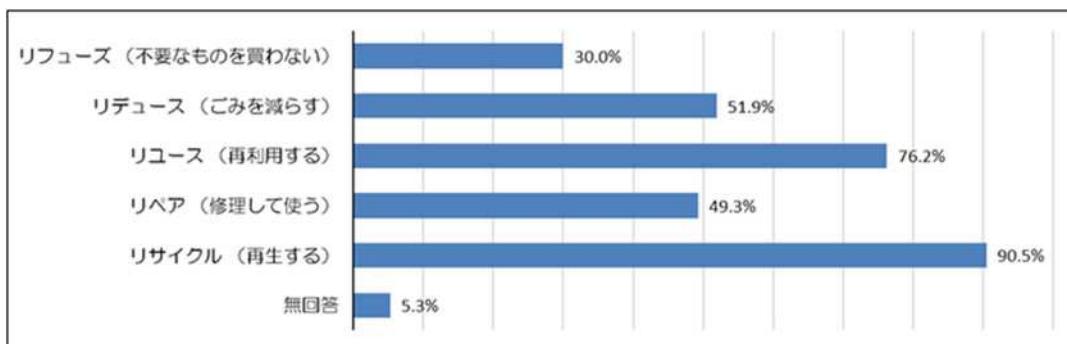


問2 (1) 5Rの取り組みについてお聞きします。5Rの取り組みのうち知っているもの全てを教えてください。(複数回答、n=552)

「リサイクル」が 88.9%で最も多く、次いで「リユース」が 84.6%、「リデュース」が 62.9%であった。

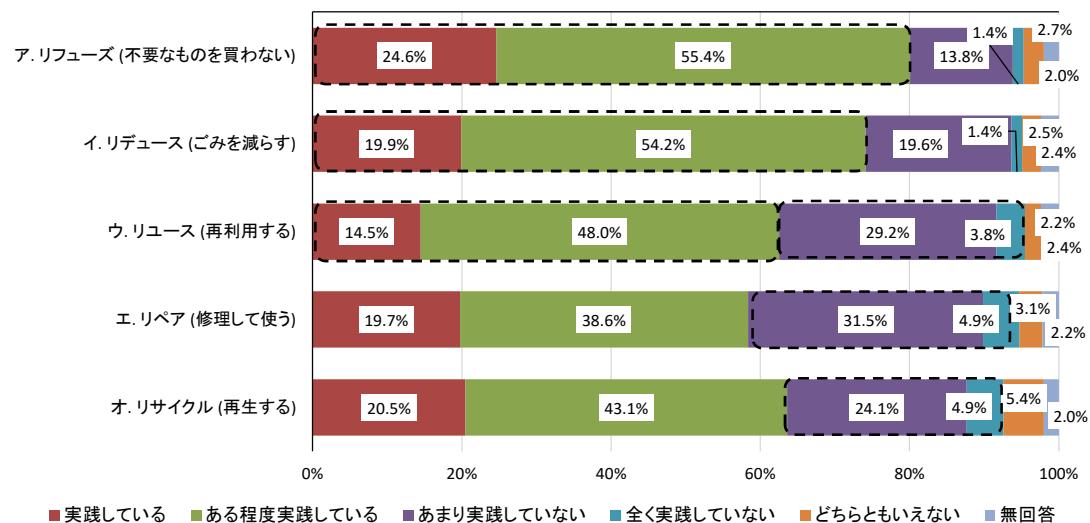


<参考:前回調査>



問2 (2) 5Rの取り組みについてどの程度実践していますか。(単一回答、n=552)

実践している行動(実践している、ある程度実践している、の計)について、「ア.リフューズ」が 80.0%と最も多く、次に「イ.リデュース」が 74.1%、「ウ.リユース」が 62.5%だった。実践していない行動(あまり実践していない、全く実践していない、の計)について、「エ.リペア」が 36.4%と最も多く、次に「ウ.リユース」が 33.0%、「オ.リサイクル」が 29.0%だった。



(2)資源分別・リサイクル

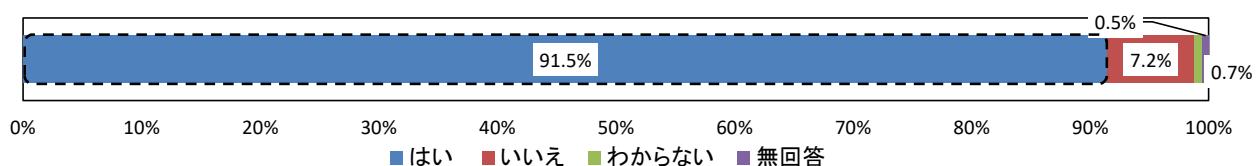
①プラスチック製容器包装の分別

プラスチック製容器包装の「分別をしている」方は 91.5%で、前回調査とほぼ同じでした(問5(1))。 「分別していない」方にその理由を確認したところ、「分別の手間などが大きい」が最も多いです(問5(2))。どのように分別をするか等の情報提供や啓発を強めていく必要があります。

【関連するアンケート結果】

問5(1) プラスチック製容器包装の分別についてお聞きします。プラスチック製容器包装を分別していますか。(単一回答、n=552)

「はい」が 91.5%で最も多く、プラスチック製容器包装の分別の周知がされている。

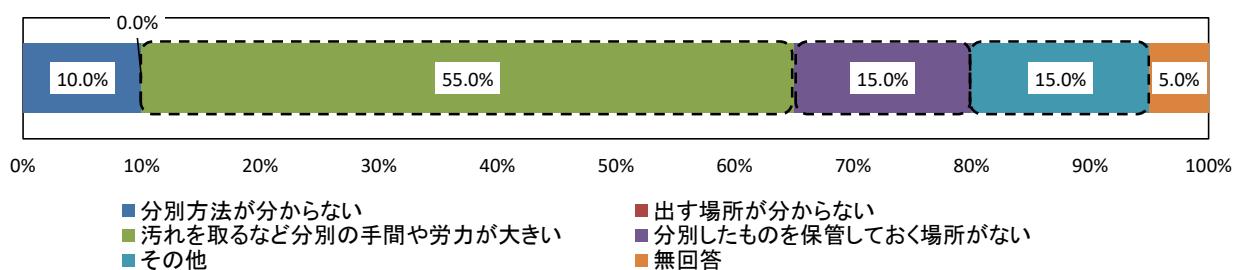


<参考：前回調査>



問5(2) 問5(1)で「いいえ」と回答した方にお聞きします。プラスチック容器包装を分別しない理由は何ですか。(単一回答、n=40)

「分別の手間などが大きい」が 55.0%で最も多く、次いで「保管場所がない」と「その他」が 15.0% であった。



<その他の回答>

- 少量しか出ないので。トレイはスーパーのリサイクルボックスに入れている。
- 分別の必要性を理解していない。

など

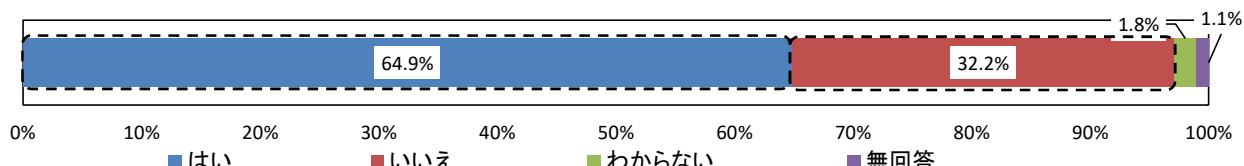
②集団資源回収

「集団資源回収を利用する」方は 64.9%で、前回調査の 93.8%から大きくポイントが下がりました（問6(1)）。また、「集団資源回収を利用しない」方にその理由を確認したところ、最も多いのは「出す場所がわからない」でした（問6(3)）。このことから、地域での資源回収の情報が届いていない市民に情報が行きわたるような施策が求められるため、「まちのえき」に取り組む地域を増やすことで楽しみながら参加できる機会を増やす等、関心を高めていく必要があります。

【関連するアンケート結果】

問6（1）自治会、子ども会、PTA、老人会などが行う集団資源回収を利用していますか。（単一回答、n=552）

「はい」が 64.9%、「いいえ」が 32.2%であった。

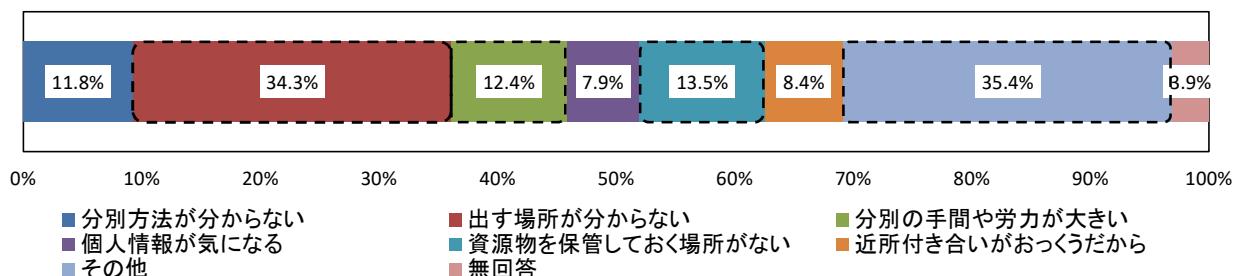


<参考:前回調査>



問6（3）問6（1）で「いいえ」と回答した方にお聞きします。集団資源回収を利用しない理由は何ですか。（複数回答、n=178）

「その他」を除き、「出す場所がわからない」が 34.3%で、次いで「保管場所がない」が 13.5%、「手間や労力が大きい」が 12.4%であった。



<その他の回答>

- どこに所属したらいいのかわからないから。
- リレーセンターへ持て行っているから。

(3)生ごみの減量・資源化

生ごみを減らす取り組みを「実施している」方は 63.0%で、前回調査の 61.5%とほぼ同じ割合でした（問7(1)）。取り組み内容は、「3キリ運動※」の取り組みを実践する方が6～7割となっています（問7(2)）。一方、生ごみ処理を行っている方は、「キエ一口を利用」、「キエ一口以外の生ごみ処理容器等を利用」のいずれも10%以下で、普及が進んでいない状況（問7(2)）ですが、生ごみを減らす取り組みを「実施していない」方の4割が「生ごみを減らすために処理容器や処理機を利用してみたい」と回答しています。（問7(3)）。このことから、情報提供や啓発を推進することで利用者増につなげることが可能と考えられます。

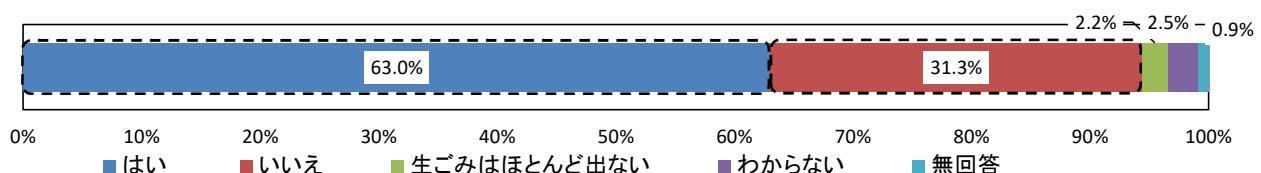
市では燃えるごみの減量や生ごみの資源化を目的に「キエ一口」の利用を推進しており、この取り組みをさらに強める必要があります。

※3 キリ運動は、使いキリ、食べキリ、水キリの 3 つの行動により食品廃棄物を減量する取り組みで、使いキリは食材を必要な分だけ買うことで使い切るようとする行動です。

【関連するアンケート結果】

問7（1）生ごみの減量についてお聞きします。生ごみを減らす取り組みをしていますか。（単一回答、n=552）

「はい」が 63.0%、「いいえ」が 31.3% であった。

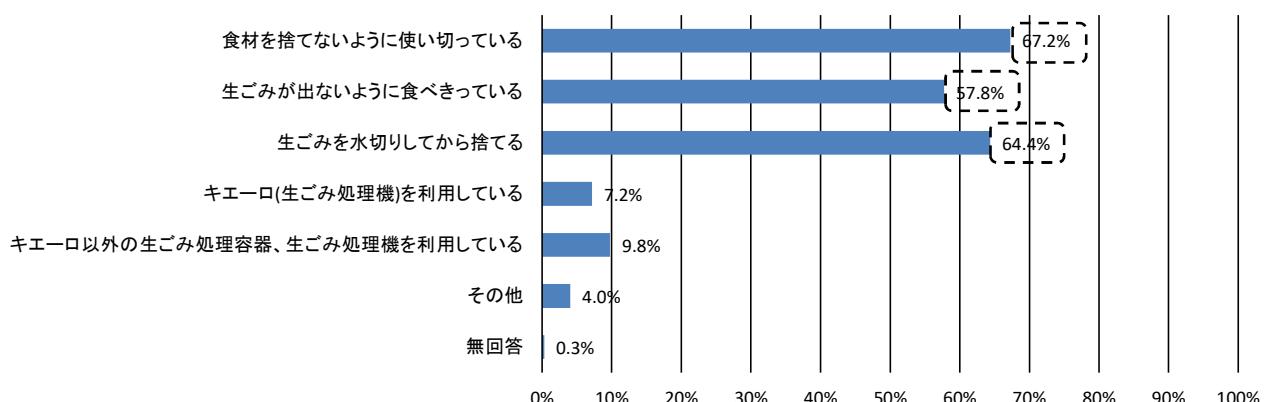


<参考:前回調査>



問7（2）問7（1）で「はい」と回答した方にお聞きします。生ごみを減らすためにどのような取り組みをしていますか。（複数回答、n=348）

「食材を使い切っている」が 67.2%で最も多く、次いで「生ごみを水切りしてから捨てる」が 64.4%、「生ごみが出ないように食べきっている」が 57.8% であった。



問7（3）問7（1）で「いいえ」と回答した方にお聞きします。生ごみを減らすために処理容器や処理機を利用してみたいと思いますか。（単一回答、n=173）

「利用してみたい」が42.8%、「利用したいと思わない」が39.9%でほぼ拮抗していた。



＜「利用してみたいが難しい」と回答した方でその理由＞

- マンションだから。
- キエ一口を利用しようとしたが、面倒すぎてやめた。

など

＜参考:前回調査＞

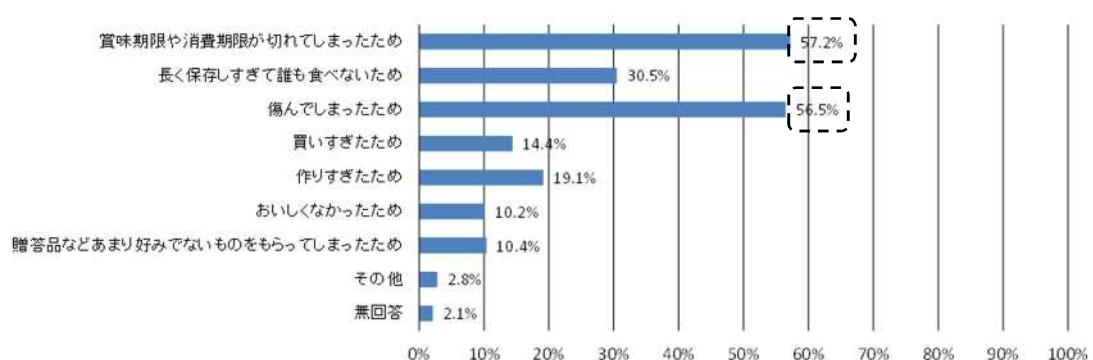


（4）食品ロス

家庭において食品ロスが発生する主な理由として、「賞味期限・消費期限が切れてしまったため」「傷んでしまったため」がそれぞれ50%以上と高い割合を示しています（問8（2））。

市では、家庭での「3キリ運動」の促進やフードドライブの推進といった、食材を無駄にしない取り組みを展開しており、引き続き情報提供や啓発を行うなどの取り組みを進める必要があります。

問8（2）あなたの家庭で食品ロスが発生する主な理由は何ですか。（複数回答、n=552）



(4)新型コロナ感染症の生活やごみへの影響

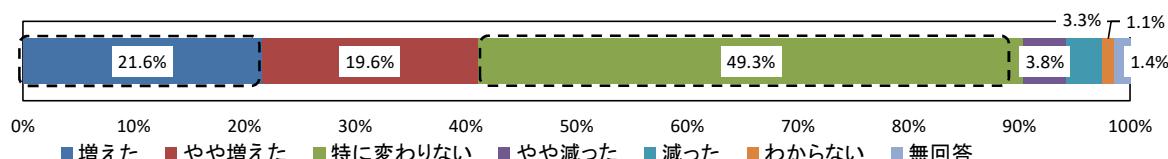
在宅する時間の長さがごみ量に影響を与えると考え、新型コロナウイルス感染症流行前(2019年12月以前)と比べて、現在、自宅で過ごす時間が増えているかについて確認したところ、在宅時間が「増えた」方は、21.6%でした(問11(1))。自宅で過ごす時間が増えた理由は「人と会う機会が減ったから」が最も多く、次いで「外食を控えるようになったから」で、新型コロナウイルス感染症を機にライフスタイルが変化したことが窺えます。また、「退職したから」を理由に挙げる方も22.0%ありました。

また、このようなライフスタイルの変化がごみ量に影響を与えたかについて新型コロナウイルス感染症前後でのごみ量の変化について確認したところ、「特に変化はない」が72.6%でほとんどの方はごみ量に影響がないとしています。これは、昨今の物価高騰による買い控えのためかごみ量が減少傾向にあり、この減少分が自宅で過ごす時間の増加に伴うごみ量の増加を打ち消していると考えられます。

【関連するアンケート結果】

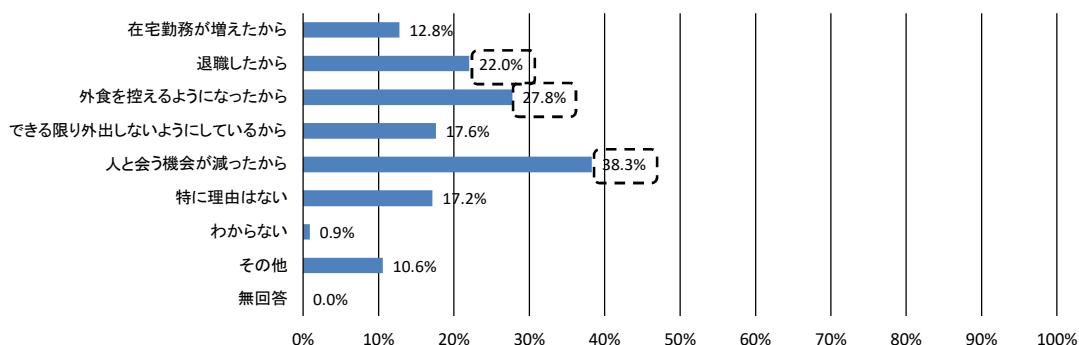
問11(1) この5年間のご家庭での生活スタイルの変化やごみ量の変化についてお聞きします。新型コロナ感染症流行前(2019年12月以前)と比べて、現在、自宅で過ごす時間について教えてください。(単一回答、n=552)

「特に変わらない」が49.3%で、「増えた」が21.6%であった。



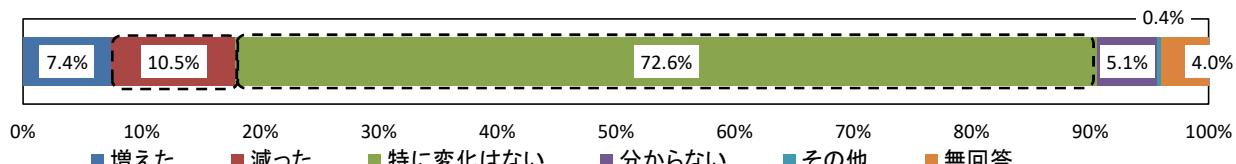
問11(2) 問11(1)で「増えた」「やや増えた」を選択した方にお聞きします。その理由について教えてください。(複数回答、n=227)

「人と会う機会が減ったから」が38.3%で最も多く、次いで「外食を控えるようになったから」が27.8%、「退職したから」が22.0%であった。



問11(4) 新型コロナ感染症流行の前と後を比べてご家庭から排出されるごみ量はどうなりましたか。(単一回答、n=552)

「特に変化はない」が72.6%で、「減った」が10.5%であった。



(5)ごみ減量等のボランティア活動

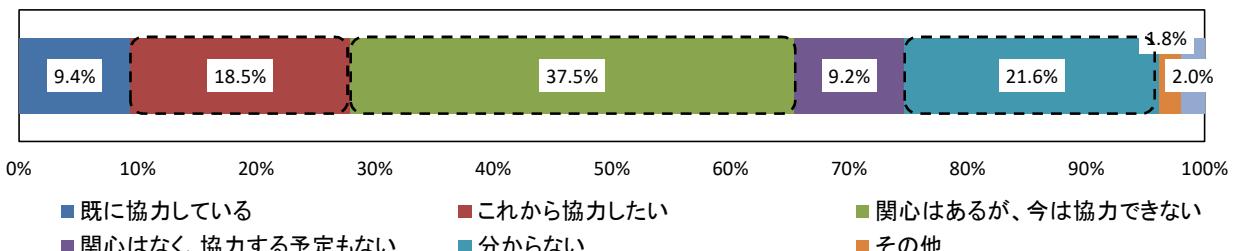
「ごみ減量やものを大切にすることにつながる活動やボランティア」への協力状況や関心については、「関心はあるが、今は協力できない」とする方が最も多く、「これから協力したい」とする方は18.5%でした(問12(1))。

ボランティア活動に関する情報提供により参加者増に繋げていくことが求められます。

【関連するアンケート結果】

問12(1) あなたはごみ減量やものを大切にすることにつながる活動やボランティアに協力したいですか。(単一回答、n=552)

「関心はあるが、今は協力できない」が37.5%で最も多く、次いで「分からぬ」が21.6%、「これから協力したい」が18.5%であった。



<その他の回答>

- 今は介護で忙しい。
- 内容次第である。協力可能ならやりたい。

など

問12(2) 問12(1)で「既に協力している」「これから協力したい」を選択した方にお聞きします。あなたが活動するときに市にサポートしてもらいたいことがあれば教えてください。

- 食器などの無料提供をリレーセンターだけでなく他でもして欲しいです。
- キエ一口の普及のための周知。使わなくなったおもちゃの再利用へのサポート
- 環境保全活動のボランティアをもっと、ららポートで推進してほしい。

など

問12(3) 問12(1)で「関心はあるが、今は活動を行えない」を選択した方にお聞きします。差し支えない範囲で理由を教えてください。

- 共働きで子供も小さく仕事も忙しく朝早く夜が遅い。
- ボランティア活動を他にもしている為。
- どういったものがあるのかをまず知りたい。参加しやすそうであれば協力したい。

など

(6)生駒市の取り組み

生駒市の事業について、利用・参加状況や認知度の状況は、問13(1)のとおりでした。

利用・参加状況や認知度は、事業ごとにばらつきが大きいため、それぞれの事業の広報や啓発状況を確認し、効果的な手法を検討していく必要があります。

【関連するアンケート結果】

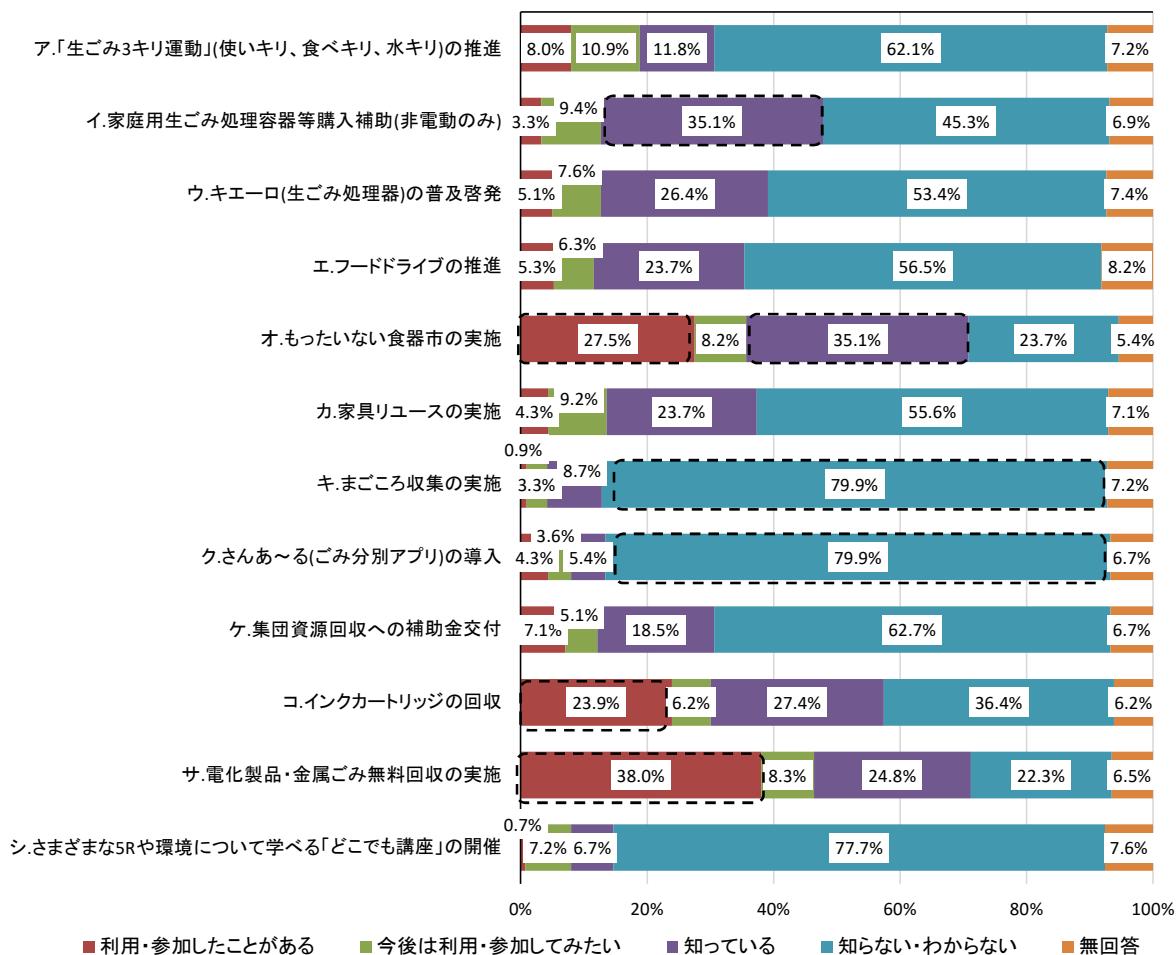
問13(1) 生駒市の取り組みについてお聞きします。生駒市ではごみ減量や資源化、適正処理等を目的に様々な取り組みを行っています。認知度や参加状況、重要なと思う取り組みを教えてください。

取り組みの認知度・参加状況などについては、「利用・参加したことがある」が最も多かったのは「サ.電化製品・金属ごみの無料回収」が38.0%で、次いで「オ.もったいない食器市」が27.5%、「コ.インクカートリッジ回収」が23.9%であった。

「知っている」では、「イ.家庭用生ごみ処理容器等購入補助」が35.1%、「オ.もったいない食器市」35.1%と多かった。

「知らない」では「キ.まごころ収集」、「ク.さんあ～る(ごみ分別アプリ)の導入」が79.9%と多かった。

【認知度や参加状況】(単一回答、n=552)



2. 事業所アンケート結果概要

(1)ごみ減量・リサイクルの取り組み状況

ごみ減量やリサイクルに取り組んでいる事業所は、80.5%と高い状況でした(問10)。ただ、「ある程度取り組んでいる」と回答した事業所の取り組み状況には相当のばらつきがあると考えられるため、取り組み優良事例を紹介する等、取り組みを強めてもらえるよう情報提供や啓発を強めていく必要があります。

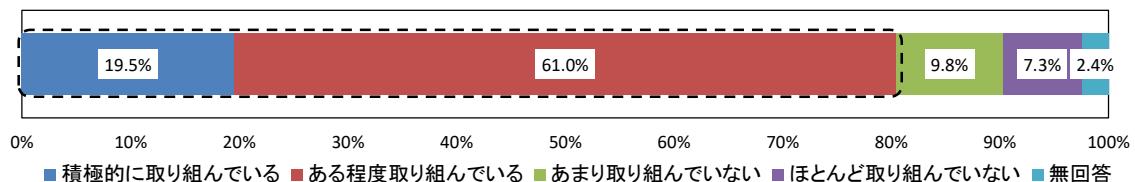
取り組めていない事業者の理由(問12)は回答数が少ないため、その結果はあくまで参考情報となりますが、「1.処理などの方法がわからない」や「3.収集運搬業者等の選び方がわからない」といった理由で取り組めていない場合は、情報提供や相談の機会を設ける等の取り組みが有効です。

【関連するアンケート結果】

問 10 貴事業所では、ごみの減量化・リサイクルにどの程度取り組んでいますか。

(単一回答、n=41)

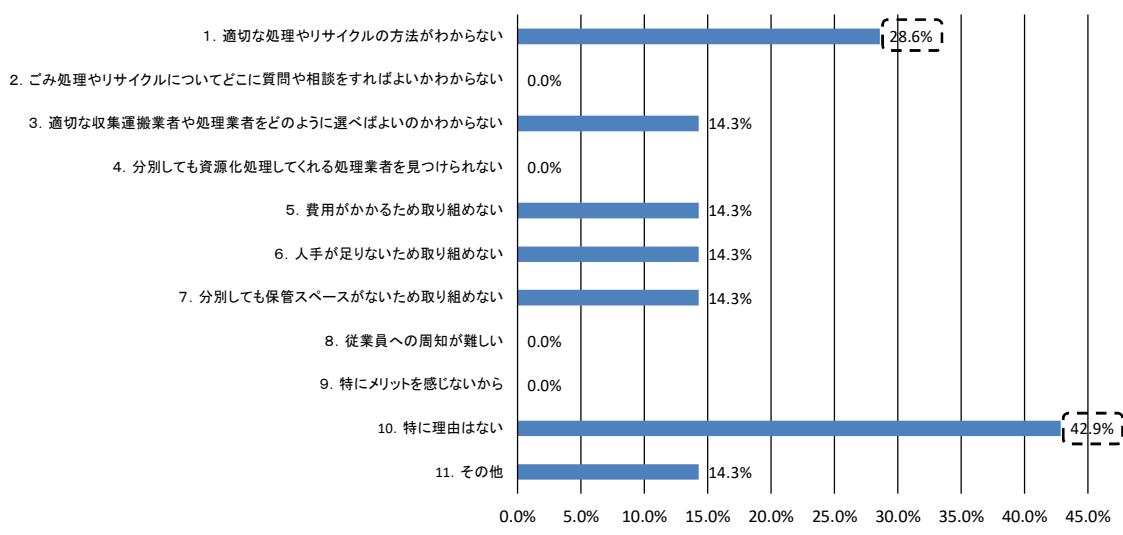
取り組んでいる（積極的に取り組んでいる、ある程度取り組んでいる、の計）が80.5%と、取り組んでいない（あまり取り組んでいない、全くあまり取り組んでいない、の計）の17.1%を大きく上回っている。



問 12 問 10 で「3. あまり取り組んでいない」「4. ほとんど取り組んでいない」を選んだ方にお聞きします。ごみの減量化・リサイクルに取り組めない理由は何ですか。

(複数回答、n=7)

「10.特に理由はない」が42.9%で最も多く、次いで「1.処理などの方法がわからない」が28.6%、「3.収集運搬業者等の選び方がわからない」、「5.費用がかかるため取り組めない」、「6.人手不足のため取り組めない」、「7.保管スペースがないため取り組めない」「11.その他」が14.3%であった。



(3)社会全体でのごみ減量や資源循環につながる事業活動

店舗等利用者のごみ減量や資源循環につながる取り組みを行っているかどうか、また市民等と連携した販売やサービスを展開する意向があるかを確認しました。

店舗等利用者のごみ減量や資源循環につながる取り組みは、半数程度以上の事業所で取り組まれており、今後具体的に取り組む予定がある事業所もいる状況でした(問14)。

また、事業者・市民が協働する「ごみ減量」や「資源循環」につながる取り組みへの関心については、「取り組んでいないが関心がある」事業所が 36.6%でした(問15)。

これらの取り組みを進める事業所の動きを促進するために、市には、事業所との連携や、これら取り組みを市民に周知する等の支援を行っていくことが求められます。

【関連するアンケート結果】

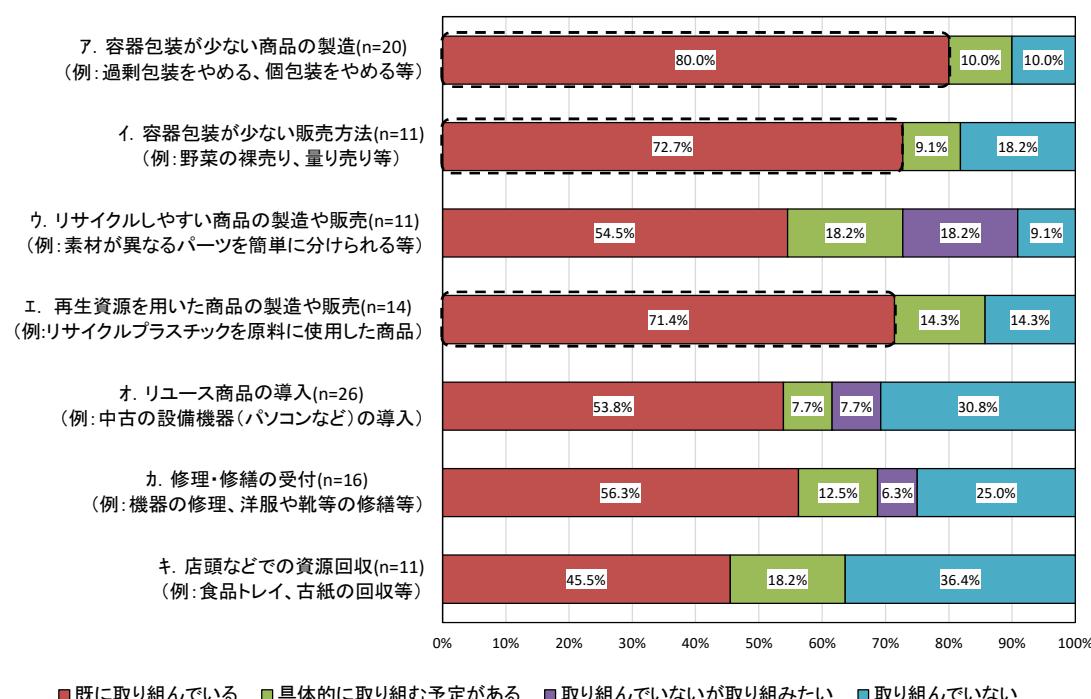
問 14 事業者だけでなく、社会全体でごみ減量やリサイクルなどにつながる商品・サービスへの取り組み状況についてお教えください。(単一回答)

「ア.容器包装が少ない商品の製造」、「イ.容器包装が少ない販売方法」、「エ.再生資源を用いた商品の製造や販売」については、「既に取り組んでいる」がいずれも 70%以上で多かった。

「ウ.リサイクルしやすい商品の製造や販売」、「オ.リユース商品の導入」、「カ.修理・修繕の受付」については、「既に取り組んでいる」がいずれも 54%~56%と過半数ではあるがア、イ、エと比較すると少なかった。これらのうち、「オ.リユース商品の導入」、「カ.修理・修繕の受付」については、「取り組んでいない」がそれぞれ 30.8%と 25.0%でア~カの中では多かった。

「キ.店頭などでの資源回収」については、「既に取り組んでいる」が 45.5%と最も少なく、50%を切っていた。また、「取り組んでいない」については最も多かった。

なお、「あてはまらない」と「無回答」は除いて集計している。



問15 事業者・市民が協働する「ごみ減量」や「資源循環」につながる取り組みに関心がありますか。(次の「取り組みの例」をお読みいただいた上でご回答ください。)
(単一回答、n=41)

事業者・市民が協働する「取り組みの例」(あくまで例示です)

例①

食品スーパーで来店者が持参した容器を用いて量り売りをすることで容器包装を減らす取り組み



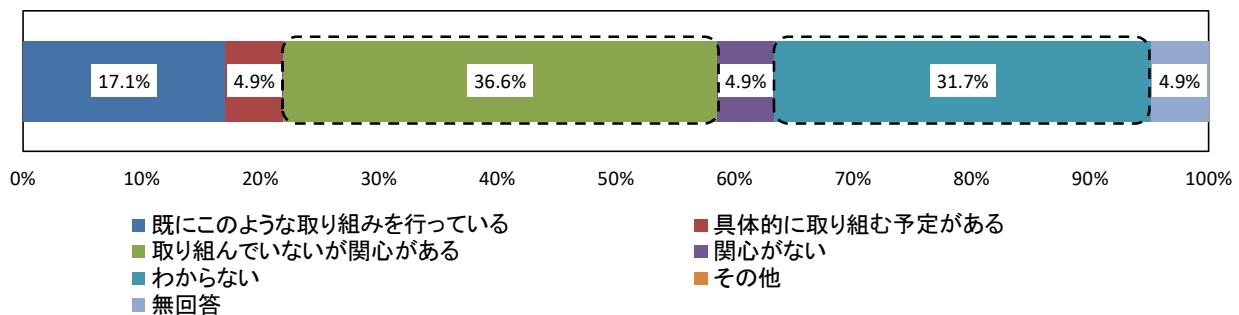
例②

飲食店で余った料理を市民が購入し食品ロスを減らす取り組み

例③

製造工場で発生する端材を工作やDIY等の素材として提供し工場のごみを減らす取り組み

「取り組んでいないが関心がある」が36.6%、「わからない」が31.7%であった。



(4)市の支援策

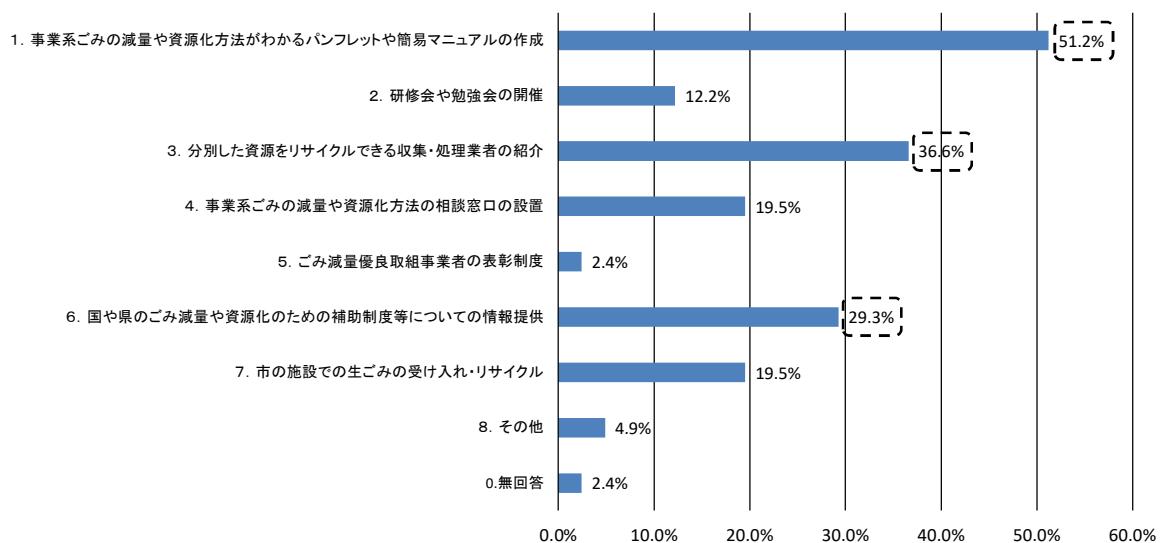
ごみ減量・資源化に取り組むために市に求める支援策として、「事業系ごみの減量や資源化方法がわかるパンフレットや簡易マニュアルの作成」が最も多く、次いで「分別した資源をリサイクルできる収集・処理業者の紹介」、「国や県のごみ減量や資源化のための補助制度等についての情報提供」でした。

これらの支援策を具体施策として挙げ、取り組んでいく必要があります。

問17 貴事業所がごみ減量や資源化に取り組むために、市に求める支援策は何ですか。

(複数回答、n=41)

「1.パンフレットや簡易マニュアルの作成」が 51.2%で最も多く、次いで「3.収集・処理業者の紹介」が 36.6%、「6.補助制度等についての情報提供」が 29.3%であった。



3. 市民ワークショップ結果概要

(1) 生駒市のごみに関する課題(ワークショップ1日目の成果)

ワークショップ1日目にて、「生駒市のごみ減量や資源循環を進めるうえでの課題」について話し合われました。「分別が難しい」「ごみの分別を冊子を見て仕分けるのが大変・高齢者には限界がある」といった現状の分別が難しいといった意見、「ごみ出しルールが守られていない」、「集積所が遠い」といった集積所の管理等に対する課題が挙げられました。その他に、「終活の仕方や大量にごみを捨てる方法がわからない」といった意見も出されました。

分別については、分別区分が増え、覚えなければならぬ情報が多くなるため、よりわかりやすい情報提供が必要になります。

また集積所管理については、高齢化により地域での適切な管理が難しくなるため、ごみ出しルールの徹底、ルールを守った排出が難しい世帯へのサポートにより集積所でのごみ散乱等を未然に防ぐなど、管理の手間を増やす取り組みを行っていく必要があります。

(2) 市民、事業者、行政が協働した新たな取り組み(ワークショップ2日目の成果)

ワークショップ2日目には、1日目で出しあった「生駒市のごみ減量や資源循環を進めるうえでの課題」と「生駒市のおいとこ」を掛け合わせて、新たな取り組みを企画しました。

企画された新たな取り組みは、いずれも「コミュニティを軸に人ととの関わりを強めながらごみ減量や資源循環に取り組む内容」で、地域での教えあい、「こみすて」のような資源回収によるリサイクルの促進、「リユース市」に代表されるようなリユースの取り組みを地域コミュニティで展開する内容でした。

これらの内容は、市のこれまでの取り組みとも一致しており、次期計画においてもこれらの取り組みを強めていく必要があります。

市民ワークショップで企画された取り組み

取り組みタイトル	概要
いこまは家族	防災無線やパッカー車、市広報車等を用いて市内に挨拶をこだませ、自然と挨拶を行う雰囲気を醸成し、コミュニティでの人ととの関りを強めることで、ごみの分別などを教えあう運動につなげる。
スマホアプリ ごみと戦士 "たけまるくん"	ITに強い人、ごみに関する知識が多い人が参加して、分別を教えあったり、地域清掃活動情報や清掃工場の見学会などのイベント情報を提供するアプリを開発する。アプリを通して人ととの関わりが増え、コミュニティの力を強める取り組みとする。
地域で家族- ごみは地域コミュニティ	集会所などで月に数回集まり、資源回収やモノの交換会、地域清掃活動などを楽しみながら行う。地域に開かれた場づくりによりお互いが支えあうコミュニティづくりにつなげる取り組みとする。

以上